

皆さんおはようございます。2学期の終わり、そして年末にあたり、今日は三つのことをお話しします。

一つめ。この2学期を振り返ってみると、実にいろいろな行事がありました。

世界一の文化祭、宇宙一の体育祭、楽しすぎた修学旅行、横浜遠足、よみうりランド、ロードレース大会、球技大会。これらの行事を通して皆さんは、自分の力の限界に挑戦したり、クラスの親睦を深めたり、友達の輪を広げたりしたことでしょう。

さらに、いくつもの部活動や有志の皆さんが支えてくれた10月の地域防災訓練、11月のさいたま国際マラソン、3日で4回おこなった学校説明会。これらの催しを手伝うことで、参加してくれた皆さんは新たな経験をし、もしかしたらそこで新たな発見をしたかもしれません。

もちろん行事だけではありません。中間考査、期末考査、土曜セミナー、受験サプリ、週末課題、そして何よりも日々の勉強と毎日の学校生活。何気ない日常生活の中でも、皆さんは様々な経験を重ねてきているのです。

そしてこの2学期、これらの学校行事や学校生活の中で、皆さんは日々磨かれてきました。皆さんの内面は常に進化し、成長してきました。それは、自分ではあまり実感できないかも知れません。でも、入学したばかりの4月、進級したばかりの4月と、今の自分とを比べてみてください。そこに少しでも自分なりの成長の跡が見えるならば、この2学期の大宮西高校における経験が影響しているのだと思います。皆さんはこれからもまだまだ大きく成長し、進化し続けることができます。

ここでいう、皆さんを成長させ、進化させる経験とは、必ずしも上手くいった経験だけを指すではありません。むしろ失敗したり、不十分だったり、後悔したりした経験こそが、皆さんを成長させるのです。

二つめ。この秋、二人の日本人がノーベル賞を受賞しました。生理学・医学賞の大村智（おおむら さとし）先生と、物理学賞の梶田隆章（かじた たかあき）先生です。特に梶田先生は埼玉県出身であり、県立川越高校と埼玉大学を卒業していることから、県内でも大きな話題になりました。

梶田先生は、物質を作っている最も小さい粒である素粒子の一つ「ニュートリノ」について研究し、ニュートリノに重さ、質量があることを実証しました。これは、この広い宇宙の構造や成り立ちなどを解明するのに、とても重要だと考えられています。

一方、大村先生は、アフリカの風土病の予防と撲滅に向けた研究を続け、治療に有効な薬へとつながる新たな微生物を土の中から発見しました。その後、この微生物を応用した新薬が開発され、アフリカではたくさんの命が救われました。

どちらの研究も、今年とか去年とか、そんな短い期間での活躍が讃えられたのではなく、実に何十年もの研究の成果が認められたことによる受賞です。その過程では、何百、何千、もしかしたら何万もの失敗があったことでしょう。それでもお二人とも途中で研究を投げ出さず、遂には輝かしい成果を挙げたのです。

大切なのはここからです。では、お二人は「ノーベル賞を目指して」地道な研究を続けたのでしょうか？ いいえ、そうではありません。この二人に限らず、ノーベル賞受賞者

に共通して言えるだろうことは、ノーベル賞受賞という「栄冠」を目指して研究や活動をしているのではなく、それぞれの分野で「みんなのため」になるように力を尽くしているということです。

「みんなのため」を言い換えれば、「世界を、この世の中を、もっと良くするため」ということです。ノーベル賞は、そうした取組に対する世界の賞賛の代表格なのです。

昨年、パキスタンの女性活動家、女性と言ってもまだ17歳のマララ・ユスフザイさんが、ノーベル平和賞を受賞したのを覚えていますか？ 皆さんも見たり聞いたりしたことと思います。マララさんは、敵意に溢れる紛争のただなかで大きな危険を背負い、一時は銃撃により頭蓋骨に瀕死の重傷を負いながら、女性や子供の教育の権利と重要性を訴え続けました。

マララさんの活動やスピーチについて、ここで詳しく話すことはしません。ぜひ、冬休み中にウェブで調べるなり、彼女について出版された本を読んでみるなりして、彼女が何をどうやって訴えたのか、触れてみてもらいたい。そして、同年代の高校生として、それをどう感じるのか、自分自身の感性を試してみてください。

さて、最後三つめ。三つめは、一つめの話と二つめの話を踏まえてお話しします。

一つめにお話ししたのは、2学期の行事と皆さんの成長と進化についてです。ポイントはこうです。

「上手くいった経験だけではなく、むしろ失敗したり、不十分だったり、後悔したりした経験によって、皆さんは、まだまだ成長し、進化し続けることができる。」

二つめにお話ししたのは、ノーベル賞についてのことです。ポイントはこうです。

「みんなのために、世界を、この世の中を、もっと良くするために力を尽くすことが、結果として世界から賞賛される」

この二つのことを踏まえて、皆さん一人一人に、次の問題に対する自分なりの答えを、冬休み中に考えて来てもらいたい。問題はこうです。

「世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいか。」

来年1月8日の始業式で、皆さんの何人かを指名しますので、答えてもらいます。正解はありません。正解はありませんが、アイデアなら、皆さん一人一人の頭の中と、心の内にあります。あると信じています。

もう一度言います。来年1月8日の始業式で、皆さんの何人かを指名しますので、次の問いについての自分なりの答えを、冬休み中に考えておいてください。

「世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいか。」

私の話は、4月の入学式での式辞や始業式での講和からのものをほとんど全て大宮西高校の公式ホームページ上の「校長室」というページに、「校長室だより」として掲載してあります。今日の話もすぐに掲載しますので、今の「宿題」を忘れてしまったり、もう一度じっくり確認したりしたいという人は、ホームページを見てください。

また、お家の方にも是非「ホームページに校長の話が載ってるよ」と、教えてあげてください。

以上で私の話を終わります。

I hope you all have a Merry Christmas and a Happy New Year.

来年もまた、皆さんのすべての活動を楽しみにしています。

Pride of the West、西高の誇りを伝えよう。